

第3講：中世・宗教改革 - 教理の展開過程 -

1. 啓示神学と自然神学 2. 罪と sacrament 3. 宗教改革の意義

3. 宗教改革の意義

1. 自然法に基づく中世的なキリスト教統合体(階層構造)の歴史化・流動化
2. 宗教改革と三大スローガン
ルター:信仰のみ、聖書のみ、万人祭司
3. 宗教改革が思想的社会的にもたらした影響
 - (1)個人の意味、人格概念 民主主義
 - (2)職業観 資本主義
 - (3)宗教戦争 宗教的多元性(教派の多元性)
4. 古プロテスタンティズムと新プロテスタンティズム
トレルチのプロテスタンティズム論
5. エキュメニズムとプロテスタンティズム
プロテスタント時代の終焉?

<文献>

1. 『ルター著作集』(聖文舎) 2. ベイントン 『宗教改革史』(新教出版社)
3. 今井晋 『ルター』(講談社)
4. 金子晴勇『ルターの宗教思想』(日本基督教団出版局)
『宗教改革の精神』(中公新書) 5. 鈴木宣明 『ローマ教皇史』(教育社)

1. 講義内容と順序

導入:

- 1:オリエンテーション
- 2:宗教としてのキリスト教
 - 2 - 1:信仰 2 - 2:神 2 - 3:象徴・神話

序 論:キリスト教研究に向けて

第1講:聖書 - キリスト教思想の源泉 -

- 1:正典論、神の言葉と人間の言葉
- 2:啓示
- 3:創造
- 4:知恵
- 5:終末

第2講:古代 - キリスト教教理の形成過程 -

- 1:国教化
- 2:正統と異端
- 3:三位一体論

序 論:近代世界とキリスト教

第1講:啓蒙思想のインパクト

第2講:宗教学と宗教本質論

- 1:理神論とカント
- 2:シュライエルマッハー
- 3:オットー
- 4:ユング

第3講:宗教批判

- 1:フォイエルバッハ
- 2:マルクス
- 3:ニーチェ

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 4:キリスト論 | 4:フロイト |
| 第3講:中世・宗教改革 - 教理の展開過程 - | 5:キルケゴールとバルト |
| 1:自然法と摂理 | 第4講:宗教的多元性 |
| 2:啓示神学と自然神学 | 1:現代世界の宗教的状況 |
| 3:教会と sacrament | 2:エキュメニズム |
| 4:信仰義認 | 3:宗教の神学と宗教対話 |

序論：近代世界とキリスト教

1. 近代以降のキリスト教思想を論じる意義
2. 近代とは？

資本主義経済システム(市場経済)、議会制民主主義、信教の自由・政教分離、近代科学といったものによって特徴づけられた歴史時代

宗教改革・イタリアルネサンスから(15～16世紀)
18世紀の啓蒙期以降から:新プロテスタンティズム(トレルチ)
3. 中世のカトリック教会の一元的状況 教派的多元性
1555年:アウクスブルクの和議 1618-48年:30年戦争
4. 17世紀の宗教的状況
教派的多元性の理解と説明、そして克服の思想的努力
正統と異端 / エキュメニズム / キリスト教合理主義(理神論、ユニテリアン)
社会的文化的な統合の新たな基礎付け
国民国家と民族の理念、普遍的理性、キリスト教は補完機能を果たす
神学 哲学 諸学の専門化・細分化
 18～19世紀 20世紀
- 近代世界の形成と自立
近代的システムの自律的法則性による自己展開、世俗化
こうした近代へのキリスト教の対応:
 1. 近代世界への適合
 2. 過剰適合への批判・反動
 3. 西欧近代という枠組み自体の克服
5. 近代キリスト教思想における三つの基本的な問い
宗教とは何か(宗教本質論)
宗教の存在意味は何か(宗教批判)
どの宗教を信じるべきか、あるいはなぜ複数の宗教が存在するのか(宗教的多元性)

<ブックガイド>

1. 芦名定道 『ティリッヒと現代宗教論』(北樹出版)
2. トレルチ 『著作集』(ヨルダン社)
3. 大木英夫 『新しい共同体の倫理学 基礎編 上下』(教文館)
4. Wolfhart Pannenberg, Problemgeschichte der neueren evangelischen Theologie in Deutschland, UTB 1979 1997

